

令和 5 年度・6 年度 北信総合病院 医師労働時間短縮計画

計画期間

令和 5 年 4 月～令和 7 年 3 月末（2 年 0 ヶ月）

対象医師

北信総合病院 本院常勤医師（88 名）（2023 年 4 月時点）

北信総合病院 本院常勤医師（88 名）（2024 年 4 月時点）

1. 労働時間と組織管理（共通記載事項）

（1）労働時間数

本院常勤医師（88 名）（2024 年 4 月時点）

年間の時間外・休日労働時間数	R4 年度実績	R5 年度実績	計画期間終了年度の目標（R6）
月平均	25 時間 56 分	25 時間 06 分	25 時間 00 分 以下
月の最長	89 時間 30 分	101 時間 00 分	80 時間 00 分 以下
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	0 人・0%	0 人・0%	0 人・0%
1,860 時間超の人数・割合	0 人・0%	0 人・0%	0 人・0%

（2）労務管理・健康管理

【労働時間管理方法】

R5 年度の実績	・出勤簿（上長確認）による自己申告 ・勤怠管理システムを用いた管理の定着 ・勤怠管理システム使用についての医師向け説明会の実施（年 2 回程度） ・医局内への IC リーダーの設置
----------	--

	・医師の時間外労働に関する基準の作成（業務と自己研鑽のルールを周知） ・医師の自己申告等により副業・兼業先の労働時間の把握
R6 年度の実績	上記事項の継続

【宿日直許可の有無を踏まえた時間管理】

R5 年度の実績	宿日直許可は取得済み
R6 年度の実績	宿日直許可に基づき適切に取り組む

【医師の研鑽の労働時間該当性を明確化するための手続等】

R5 年度の実績	・時間外労働時間申請の明確化（業務と自己研鑽のルールを周知）
R6 年度の実績	上記事項の継続

【労使の話し合い、36 協定の締結】

R5 年度の実績	・36 協定の見直し（時間外労働の上限時間） ・「労務管理チェックリスト」を活用した自己点検 ・職場内掲示等によるスタッフへの周知
R6 年度の実績	上記事項の継続

【衛生委員会、産業医等の活用、面接指導の実施体制】

R5 年度の実績	・衛生委員会の定期的開催（月 1 回程度） ・産業医の選任・把握 ・健康診断を年 1 回程度実施（未受診者への受診促し。受診期間や場所等、受診しやすい環境に整える。） ・長時間勤務者と産業医との面接の場を設定 ・医師の健康診断受診率向上
R6 年度の実績	上記事項の継続

【追加的健康確保措置の実施】

R5 年度の実績	・対象者をモニタリングし、該当者には連続勤務時間制限、勤務間インターバル確保及び代償休息確保を可能とする勤務体制の検討をする
----------	--

	・月の時間外・休日労働が 155 時間を超えた医師への労働時間短縮措置の実施
R6 年度の実績	上記事項の検討・実施

(3) 意識改革・啓発

【管理者マネジメント研修】

R5 年度の実績	7/1 日本病院会長野支部講演会出席、8/2 トップマネジメント研修参加、8/12 全国厚生連病院長研修会参加、9/9 長野県病院協議会特別講演参加、10/27 科長、職場責任者研修会参加（自院開催）、11/4 第 41 回お茶の水セミナー参加、3/7 病院経営セミナー参加
R6 年度の実績	研修会等への積極的参加の継続

【働き方改革に関する医師の意識改革】

R5 年度の実績	働き方改革に向けた取組事項の報告と周知（管理者会議、診療科長会議、医局会議等）
R6 年度の実績	上記事項の継続

【医療を受ける者やその家族等への医師の働き方改革に関する説明】

R5 年度の実績	院内掲示やホームページ等を活用した各種取組の広報
R6 年度の実績	上記事項の継続

(4) 策定プロセス

・事業所長、産業医、診療部長、その他医師、看護師、診療協力部、事務部門らが参画する勤務改善プロジェクト会議を開催、R4 年度初回会議にてこの計画の検討を行い策定した。

・案の段階で、対象医師やタスク・シフト先となる職員等が参集する各種会議で説明し、意見交換を実施するとともに、策定後には当該計画を医局に掲示等するほか、各職場責任者にはメール配信とした。

・R6 年度も 8 月の勤務改善プロジェクト会議内で R5 年度の実績及び R6 年度の実績を確認し情報共有した。また 9 月の診療科長会議及び職場責任者会議においても周知を行った。

2. 労働時間短縮に向けた取組（項目ごとに任意の取組を記載）

（1）タスク・シフト／シェア

【看護師・助産師・保健師】

計画策定時点での取組実績	・事前に取り決めたプロトコールに基づく薬剤の投与、採血・検査の実施 ・救急外来における医師の事前の指示や事前に取り決めたプロトコールに基づく採血・検査の実施 ・特定行為研修を終了した看護師による、特定行為実施（R6 年 4 月時点、気道確保に係るもの・動脈血液ガス分析関連・術後疼痛管理関連） ・血管造影・画像下治療(IVR)の介助 ・注射、採血、静脈路の確保等 ・カテーテルの留置、抜去等の各種処置行為 ・診察前の情報収集、トリアージ、AI 問診等 ・入院センターでの患者説明（R3 拡充済） ・助産師外来
計画期間中の取組目標	・上記事項の継続 ・特定行為研修を受講する看護師を増やす

【薬剤師】

計画策定時点での取組実績	・周術期の薬学的管理等 入院センターにおける術前中止薬の説明 ・病棟等における薬学的管理等 ・事前に取り決めたプロトコールに沿って行う処方された薬剤の投与量の変更等 疑義照会簡素化プロトコル B 型肝炎再活性化スクリーニング検査に関するプロトコル ・薬物療法に関する説明等 ・医師への処方提案等の処方支援 フォーミュラの作成（現在 14 種類）
--------------	--

	2023 年度実績：処方提案 513 件/年 相談応需 485 件/年 疑義照会簡素化プロトコル実施件数 1,328 件/年
計画期間中の取組目標	・ 上記事項の継続 ・ 事前に取り決めるプロトコルを増やす

【診療放射線技師】

計画策定時点での取組実績	・ 撮影部位の確認、検査オーダーの代行入力等 ・ 血管造影・画像下治療(IVR)における補助行為 ・ 放射線検査等に関する説明、同意書の受領 ・ 放射線管理区域内での患者誘導
計画期間中の取組目標	・ 上記事項の継続

【臨床検査技師】

計画策定時点での取組実績	・ 心臓、血管カテーテル検査、治療における直接侵襲を伴わない検査装置の操作 ・ 病棟・外来における採血業務 ・ 鼻腔ぬぐい液などの検体採取業務 ・ 輸血に関する定型的な事項や補足的な説明と同意書の受領 ・ 生理検査、生体材料標本、特殊染色標本、免疫染色標本等の所見の報告書の作成
計画期間中の取組目標	・ 上記事項の継続

【理学療法士・作業療法士・言語聴覚士】

計画策定時点での取組実績	・ リハビリテーションに関する各種書類の記載・説明・書類交付
計画期間中の取組目標	・ 上記事項の継続

【医師事務作業補助者】

計画策定時点での取組実績	・ 診療録等の代行入力 ・ 各種書類の記載 ・ 医師が診察をする前に、医療機関の定めた定型の問診票等を用いて、診察する医師以外の者が患
--------------	---

	者の病歴や症状などを聴取する業務 ・ 日常的に行われる検査に関する定型的な説明、同意書の受領 ・ 入院時のオリエンテーション
計画期間中の取組目標	・ 上記事項の継続

(2) 医師の業務の見直し

計画策定時点での取組実績	・ 診療科ごとの体制ではなく、交代で1日当直当たり2人体制とし、宿日直しない診療科はオンコール体制とする ・ 宿日直を担う医師の範囲の拡大（パート医師の参画等） ・ 月、水曜午前の手術枠拡大 ・ 土曜午前の手術枠確保 ・ 当直明けの休みの推奨 ・ 外来の機能分化（紹介・逆紹介の活性化） ・ 主治医チーム制の導入 ・ カンファレンスの勤務時間内実施や所要時間の短縮 ・ 病状説明の勤務時間内実施と患者・家族への周知徹底 ・ クリティカルパスの作成等による業務の標準化 ・ 研修医の学習環境の向上（上級医による教育時間の確保）
計画期間中の取組目標	・ 上記事項の継続 ・ クリティカルパス、2023年度現在133種類、使用率39.6%にて、50%前後を目標とする。

(3) その他の勤務環境改善

計画策定時点での取組実績	・ Web 会議システム、院内グループウェア等の積極的活用
--------------	-------------------------------

	・患者家族へのリモート IC ・医師が短時間勤務等を希望した場合に受け入れ、活用できる環境がある ・子育て世代の医師が働きやすい環境を整備（短時間勤務、時差出勤、変形労働時間制の導入、宿日直の免除等） ・院内保育所の運営。病児・病後児保育施設（敷地内）の受託 ・地域の病院間での機能分化（休日診療所への患者誘導） ・開業医や非常勤医師による病院外来支援 ・病院診療所間の双方向の診療支援 ・介護、福祉の関係職種との連携等 ・患者相談窓口の設置（クレームを受けた場合のサポート体制の充実）
計画期間中の取組目標	・上記事項の継続

（４）副業・兼業を行う医師の労働時間の管理

計画策定時点での取組実績	・副業・兼業先がある場合、届出制とし、管理者の承認を得る。
計画期間中の取組目標	・上記事項の継続

※本項目は副業・兼業を行う医師がない場合には記載不要。